

■松川中央小学校

研究テーマ「思いを持ち、自分らしさを楽しむ子どもたち」

題材名「時空の扉をひらいて」（6年）

■松川北小学校

研究テーマ

「自分なりの意味や
価値を探索し、
様々な表現方法を
楽しむ子ども」

題材名「ひもひも
ワールド」（3年）

■松川中学校

研究テーマ

「自分の表したい思いを明確に
しながら、友と伝え合う中で、
表現力を伸ばす指導のあり方」

題材名「私のかたち・いろ
広がれ！」（3年）

第74回長野県美術教育研究大会

下伊那大会

令和2年

11月13日(金)

県美研テーマ

「ひびき合う感性『私っていいな!』 楽しく”子どもアート”」

下伊那大会テーマ

「思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク ～自分らしさを楽しむ授業へ～」

大会日程

■授業公開 中央小 10:35～
北小 10:55～
中学校 10:45～

■研究会 13:05～

■開会行事 14:05～

■講演会 14:35～

群馬大学教育学部教授 林 耕史 氏「今、図画工作科・美術科の教育で大切にしたいこと」

■閉会行事 16:40～

第60回

松風祭
華

～小さな蕾から大きな華へ～

令和2年9月26日(土) 松川中学校

松風祭
華





下伊那大会によせて

下伊那大会運営委員長
渡邊 浩（松川中学校）

コロナ禍の中、第74回長野県美術教育研究大会下伊那大会を開催することができました。関係者の皆様のご理解とご協力に対し、まずは御礼を申し上げます。

本大会ではテーマを「思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク」～自分らしさを楽しむ授業へ～とし取り組んで参りました。下伊那支部では特に「思い」の部分を大切に考え、児童生徒がこの「思い」を元に表現すること、あるいは造形活動から「思い」を明確にしていくこと、そして教師も「思い」を軸に評価をしていくことを中心に据えて実践を積み重ねてきたところでもあります。新学習指導要領が小学校ではすでにスタートし、中学校でも来年度からのスタートを迎えるこの時期、新しい授業感や学力感が論議されているまさに今、私たちは、その本質を探る中で、この「思い」を中心に据えることこそ、図工・美術教育の原点と考えたからであります。

しかし、このことは決して目新しいことではなく、私たちの先輩から脈々と受け継がれていることでもあります。本年10月3日から、つい先日の11月8日まで、飯田市美術博物館において「竜丘児童自由画100周年展」～自由の丘の熱き記憶～という企画展が開かれました。山本鼎が大正8年（1919年）上田市の神川小学校において児童自由画展覧会を開催しました。この第2回児童自由画展覧会が同年、飯田の竜丘小学校で開催され、その中心となった人物が木下紫水という竜丘小学校の教師でありました。木下は明治43年9月に設立された現在の下伊那美術研究会の前進、下伊那手工図画研究会にも所属し、下伊那美術教育の中心として当時活躍した先達であります。今回の展覧会の企画展講座において、木下紫水が大正10年（1921年）『芸術自由教育』に載せた文章が取り上げられました。これが実に興味深く、まさに現代の私たちが目指している方向と合致するものであると確信しましたので、ここにその文章を紹介させていただきます。「どの子供についても、しみりと二人して話してごらんなさい。皆こうした美しい動機や、尊い過程を持っています。知るということはやはり愛です。その絵の結果のみによって称賛したり、評価する時、教育上往々に大きな障害をきたすことがあります。芸術が何であるか、子供が何であるか、人間が何であるか、宗教がなんであるか、其れが根本的に理解されていない教師には自由画も消滅する。歌も詩も消滅する。総てが消滅する。要は人其人に存す。末梢の事に腐心するのを止めて速やかに源泉に還る事である。」（ふみさんの絵と歌）

私たちは、このように木下も言っている「美しい動機」「尊い過程」を「思い」と捉え、この「思い」をつなげ、広げていく中に、授業において、自分らしさを楽しむ児童生徒の姿を目指しました。それは長野県の研究テーマでもある「私っていいな」につながる姿でもあると考えています。県下の先生方に、直接、下伊那の児童生徒そして先生方の生の様子を見ていただけないのは残念ですが、指導案の中に、実践記録の中に、活動している画像の中に、そして作品の中に私たちの目指す図工・美術教育のあり方を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会をご後援いただきます長野県教育委員会、松川町教育委員会、公益社団法人信濃教育会、下伊那教育会、下伊那校長会、及び授業提供を快くお引き受けいただいた松川町小中学校の皆様に厚く御礼を申し上げ、開会のご挨拶といたします。

第74回長野県美術教育研究大会 下伊那大会 大会要項

〈全県研究テーマ〉 ひびき合う感性『私っていいな!』 “楽しく子どもアート”

〈下伊那大会テーマ〉 思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク
～自分らしさを楽しむ授業へ～

- 1 期 日 令和2年11月13日（金）
- 2 会 場 「松川町中央公民館 えみりあ」全体会場
- 松川中央小学校・松川北小学校 小学校 公開授業 授業研究
松川中学校 中学校 公開授業 授業研究
- 3 主 催 長野県美術教育研究会
- 4 後 援 ☐長野県教育委員会 ☐松川町教育委員会 ☐下伊那校長会
☐下伊那教育会 ☐信濃教育会
- 5 授業会場、授業者、指導者

校種	授業会場	学級	授業者	指導者
小学校	松川北小学校	3年	稲吉 匠 教諭	千原 厚 専門主事
	松川中央小学校	6年	北田聡一朗 教諭	志摩 宏道 指導主事
中学校	松川中学校	3年	水野 恭子 教諭	上條 雪絵 青木中教頭

- 6 全体講師
林 耕史 氏 群馬大学教育学部教授

7 大会日程

会場	受付	公開授業	移動	授業公開 中央小 北小 中学校	移動 昼食 えみりあ 準備	授業 研究会 えみりあ	開会行事 えみりあ	講演会 閉会行事 えみりあ	移動 支部 長会	情報交換会 清流苑
時間	各学校15分前から 受付を開始します。			10:35～中央小 10:55～北小 10:45～中学	～ 13:00	13:05 ～ 13:55	14:05 ～ 14:25	14:35 ～ 16:35	中止	中止

※参観者は県美研役員及び下伊那美研会員に限る。一般参加者は募らない。
(新型コロナウイルス感染症の状況によってさらに限定する可能性あり)

- ※保育園での公開は行わない。
- ※研究会はえみりあ学習室において、指導者、参観者で行う。
- ※開会行事 講演会 閉会行事はえみりあホールにて行う。
- ※展覧会 展示会（業者ブース）は行わない。

8 昼食・授業研究会・開閉会行事・講演会 会場

松川町中央公民館 えみりあ 松川町元大島 3720

公開授業 授業者	研究会場	助言者	司会者
小学校3年生 稲吉 匠 教諭	えみりあ 学習室	千原 厚 専門主事 長野県総合教育センター	海沼 峰華 先生 飯田市立三穂小学校教頭
題材名 「ひもひもワールド」			
小学校6年生 北田聡一郎 教諭	えみりあ 学習室	志摩 宏道 指導主事 長野県教育委員会指導主事	小林 一博 先生 松川中央小学校教頭
題材名 「時空の扉をひらいて」			
中学校3年生 水野 恭子 教諭	えみりあ 学習室	上條 雪絵 先生 青木中学校教頭	柄澤 武志 先生 阿南第二中学校 教頭
題材名 「私のかたち・いろ 広がれ！」			

10 全体会次第 14:05～16:35 えみりあホール

進行 事務局

(1) 開会式 14:05～14:25

- ① 開会の言葉
- ② 長野県美術教育研究会会長挨拶
- ③ 下伊那大会運営委員長挨拶
- ④ 次回 第75回 代表挨拶
- ⑤ 諸連絡

(2) 講演会 群馬大学教授 林 耕史 先生 14:35～16:35

演題「今、図画工作科・美術科の教育で大切にしたいこと 」

- ① 講師紹介
- ② 講演
- ③ 質疑応答
- ④ お礼の言葉
- ⑤ 閉会の言葉

第74回 長野県美術教育研究大会下伊那大会 役員名簿

役 職		役 員	所属校				
大会長	県美会長	村松哲史	信更小				
運営委員会	大会運営委員長	渡邊 浩	松川中				
	副委員長	木下 武	下久堅小	山崎重幸	泰阜小	海沼峰華	三穂小
	副委員長	小林一博	松川中央小	柄澤武志	阿南二中	※各局長、主任	
総務・事務局	局長(編集・会報・渉外)	服部淳之介	松川中央小				
	副局長(会計)	村澤由笛	上郷小				
研究局	研究局長	加山雅康	座光寺小				
	小学部主任	北沢孝太郎	龍江小				
	小学部会場責任者	小林一博	松川中央小	海沼峰華	三穂小		
	小学部会	築島由美	豊丘南小	下平玲奈	座光寺小	内田美咲	下條小
	中学部主任	竹原博紀	緑ヶ丘中				
	中学部会場責任者	柄澤武志	阿南二中	水野恭子	松川中		
	中学部会	小島敬介	旭ヶ丘中	世古口尚紀	喬木中	坂倉正人	竜東中
		久保田哲史	高森中	深町さや香	豊丘中	中澤 竣	緑ヶ丘中
		山内孝一	阿南一中				
事業局	局 長	田中美実葉	高陵中				
	記録・情宣	山崎重幸	泰阜小	若林 翼	旭ヶ丘中		
	展覧会	田中美実葉	高陵中	塩澤俊治	飯田西中		
庶務・厚生局	局 長	村澤由笛	上郷小				
	受 付	矢澤育子	伊賀良小	権田美和子	伊賀良小		
	放送・接待	菅沼亜里	座光寺小	宮島順子	泰阜中		
	宿泊・レセプション	名子利志子	阿智中	羽生京子	下条中		
	交通案内	鈴木亮輔	鼎中				

令和2年度長野県美術教育研究会下伊那大会研究テーマおよび研究の方向

下伊那支部

全県研究テーマ 「ひびき合う感性 『私っていいな!』 楽しく“子どもアート”」

下伊那大会テーマ 「思いつながる 広がる 私の造形ネットワーク」
～自分らしさを楽しむ授業へ～

1 下伊那大会テーマ設定について

〈北安曇・安曇野大会を受けて〉

昨年度、北安曇・安曇野大会では、「伝え合い、つなげてみよう」～対話的で創造的な学びを求めて～とし、友達同士の対話、自己や作品との対話を授業の中で位置づけることで、さらに創造的な学びの姿を実現しようと研究を進め、新学習指導要領との関連も大切にしながら、図画工作・美術科の授業の在り方を提案していただきました。

本年度から施行された新学習指導要領の改訂の趣旨には「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断・表現などの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度を育てること…」とあります。そこで、本年度下伊那大会では、このような児童・生徒を育成するために、感性を働かせながら、自分らしい表現や鑑賞の力を育み、それらの活動を楽しむことで、全県研究テーマにある「私っていいな」という自己肯定感を持つことができるような授業を目指していきたいと考えています。

〈下伊那での研究から見えてきていること〉

昨年度は、児童生徒同士で自然な関わり合いの中で情報交換をすることが、自己の構想を変化させたり、試行錯誤しながら、表現が高まっていったことに有効であることが実証されました。鑑賞の場面でも友との学び合いから得られた気づきを、鑑賞している作品に戻って、再度確認し、自分の見方に反映させていく姿を確認することができました。このように、子どもたちが互いに関わり合う授業の中で、学びが深まり、成長や成功を自覚することで、いっそう主体的な学びに向かおうとする姿につながっていくことが明らかとなっています。

友とのかかわりによる学びの深まりを、より本人の思いに結びつけたものにするために、友から学びながらも模倣や寄せ集めにならず、「私っていいな」となるように、作品制作の出発点は「主題」からということを再確認したいと思います。対話的な授業の中で、主題をもとに児童生徒が創意工夫しながら活動したり作品を制作したりする姿を目



指していきたいと考えます。

本年度は感染症の影響で、昨年度の成果である友との自然な関わりを持てる場を、積極的に取り入れていくことが難しくなっています。そのため、自分の思いに迫る、もう一方の側面として考えている、「自分の中の、思いや作品との対話」にも焦点を当てていきたいと考えています。7月の事前授業では、各校通常の授業も難しい中、対策をし、できる範囲で工夫をした授業作りをしていただきました。友との対話の場面は少なくなっただけかもしれませんが、主題を意識した展開、教師からの働きかけ、学習カードを中心に、子どもの「思い」に寄り添った学習にしていけるように、研究を深めていきたいと考えています。

＜「思い」と造形ネットワークについて＞

「主題」を少し幅広くとらえられる「思い」という言葉にし、作品作りの出発点としての「思い」を持つこと、（新学習指導要領では「主題を生み出すこと」と明記）や、制作を通して変わっていくであろう「思い」をつなげていくこと、また・素材・友との対話によって知識や見方・感じ方が広がって、自分の追求にもフィードバックしていくこと。これらの造形活動に関わる相互の関わりを「造形ネットワーク」という言葉で表し、一人ひとりが経験によって組み立ててきた造形ネットワークを、自由に活用できるようになっていくことで、深い学びを実現し、「思い」の達成につながっていくと考えます。さらに、その「思い」をもとに、児童生徒同士が相互評価したり教師が作品の評価をしたりすることが、結果や出来栄にこだわりがちになってしまう授業から、「自分らしさを楽しむ授業」へと向かっていけるのではないかと考え、本研究テーマを設定しました。

2 研究の方向

- ①一人ひとりが「思い」を持つことのできる題材・導入の工夫。
- ②思いを表現に結び付ける手立ての在り方。
- ③思いの深まりや変化が確認可能な学習カードの工夫。
- ④思いを広げる「対話の時間」の設定と環境づくり。
- ⑤作者の「思い」をもとに話し合える鑑賞の時間。

※造形遊びでは、題材導入部で思いをいだかせておくことはせず、素材と対話しながら、活動を進める中での一瞬のひらめきから、「思い」が発生するよう、導きたいと思います。

図画工作科研究実践授業

下伊那大会研究テーマ

思いがつながる 広がる 私の造形ネットワーク
～自分らしさを楽しむ授業へ～

図画工作科研究テーマ

思いを持ち、自分らしさを楽しむ子どもたち

日時 令和2年11月13日(金) 10:35～11:20

題材名 時空の扉をひらいて(絵に表す)

会場 6年1組教室

学級 6年 男子 13(1)名 女子 13名 計 26(1)名

授業者 北田 聡一郎 教諭

指導者 志摩 宏道 先生(長野県教育委員会学びの改革支援課指導主事)

I 題材設定の理由

6学年になり、これまでの図工で「ぼく・わたしの感情アルバム」「夢の翼を広げて」「お話から広がる世界」という3つの絵に表す題材に取り組んできた。

感情表現という抽象的な表現である「ぼく・わたしの感情アルバム」「夢の翼を広げて」の2つの題材では、気持ちや夢を自分なりのどんな色や形で表すかを思考し、心を開放させて表現することを楽しむことができるようになってきた。

「お話から広がる世界」では、自分の描きたい場面の特に描きたいことを、友だちとの対話の中ではっきりとさせていき、それを表すための構成などを工夫しながら、お話に登場するキャラクターなどの具象表現を必要とする表現を行なった。自分の思いを持ち、絵の中にその思いを表すために工夫したことがひとつあるだけで、とても素敵な絵になることを実感し、「絵に表すことが楽しい!」「次の図工はいつやるの?」と担任に話す子どもたちの姿が多く見られるようになってきた。

そんな子どもたちに、これまで経験の少ない具象的な表現が必要になってくる題材への挑戦を考えた。具象的な表現が加わっても、これまでの造形活動を生かして思いを表現する活動に満足できることを願い、本題材を設定した。

II 題材の目標と評価規準

1 題材名「時空の扉をひらいて」(絵に表す)

2 目標

行きたい場所や時間から表したいことを考え、表現方法を工夫して絵に表すことができる。

3 評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
① 思いをより表現できるように描き方を工夫している。	② 行きたい場所や時間、そこでやりたいことを考え、表し方や構成を考えている。	③ 行きたい場所や時間から表したいことを考えようとしている。 ④ 友だちや自分の表現を味わい、たのしんでいる。

4 指導上の留意点

- (1) 前行った相互鑑賞の作品とそこから出させた、思いや表現方法を掲示しておく。
- (2) これまでに行ったモダンテクニック、構成の工夫などの表現を掲示しておく。

5 展開の概要と評価計画(全7時間)

時間	○児童の活動	評価の観点
1	○時間と空間を自由に移動できたら、自分は「いつ」「どこへ」行って「何をしたい」を考え、思いをもつ。 ・描きたい場所や時間、したいことを学習カード①にラフスケッチや言葉でかく。 (学習カード①, タブレット, 図鑑等資料)	◇描きたいことを選び、絵に表すことに取り組みようとしている。 (学びに向かう力・人間性等)
	【総合的な学習の時間、休みの日を使って】 ・思いを表すために必要な資料を用意する。 (本, 雑誌, パンフレット, インターネットを使って)	
2	○「月に行って、ウサギと餅つきをしたい」というテーマの6枚の絵で相互鑑賞を行い、それぞれの描きたいことや表現方法のよさを知り、自分の表現主題や表現方法を決める。 (クレヨン・コンテ・墨汁などの描画材, 学習カード②)	◇描きたいことを深め、それをより表現するための表現方法を考える。 (思考力・判断力・表現力等)
3 本時	○表したいものを描くために、表現方法や表現の工夫をし、絵に表す。 ・描くもの、大きさ、配置などを考えながら下書きを始める。 (印刷したりして集めた資料, 試しがきの紙・学習カード③)	◇思いをより表現するための表現方法を選んだり、表現の工夫をしたりしている。 (知識・理解・技能)
4 5 6	・思いを表すために必要な工夫を考えながら表す。 ・イメージに合った着色を用紙に試しながら表す。	
7	○友だちと作品を見合い、感じたことや気づいたことを伝え合う。 ・自分の作品づくりを振り返り、描きたかった場面をどう描いたか、表したいものが表せたかについての感想を学習カードに書く。 (学習カード④)	◇友だちと作品を見合い、思いを表現した場面の形や色の造形的な特徴から、表現のよさを感じ取っている。 (学びに向かう力・人間性等)

6 本時案

(1) 主眼

相互鑑賞によって描きたいことに合わせて色々な表現方法や表し方があることを知り、その面白さに気づいた子どもたちが、学習カードをもとに描きたいことを共有しながら意見交換することを通して、自分の思いを表現するための表現方法や構成を工夫して絵に表すことができる。

(2) 指導事項

A表現: 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見つけることや形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながらどのように主題を表すかについて考えること。

(3) 本時の位置(全7時間中第3時)

前時: 自分の描きたいことや表現方法を決め、活動の見通しをもった。

次時: より描きたい感じが出るように工夫しながら描きすすめる。

(4) 指導上の留意点

描きたいものの資料をタブレットや図鑑等で準備しておく。

(5) 準備品

児童: 学習カード, 描画用具, 描きたいものの資料

教師: タブレット, 本(図鑑), 画用紙

(6) 展開

段階	学習活動と予想される児童の姿	○教師の評価	時間
導入	1 前時の振り返りを全体で行う。 「同じテーマなのに何でこんなに表現が違ってたっけ?」 ・描きたい場面が違った。 ・考えていたストーリーが違った。 ・色んな表現方法は分かったけど、自分が描きたい場面をどんな風に表そうか迷っている。 【めあて】 「一番描きたい場面をどんな風に表すか」を友だちに伝えたり、質問に答えたりして、自分の思いを表せるように表現方法や構成を工夫して描こう。	○描きたいことが違えば、表現方法が違うことを想起させる。 ・配置や大きさ ・描画材 ・用紙の大きさや色、形 ・モダンテクニック	3
追究①	2 学習カード②をもとに描きたい場面について友だち描きたいことを明確にする。 「前の時間に自分が描きたい場面(もの)とそれを何を使ってどう表すか考えてみたね。友だちに自分が描きたいものとどんなふうに描こうと思っているかを伝えて、やりたいことをはっきりさせよう。」 ・8年後のサッカーワールドカップに日本代表として出場しているところを描こうと思っています。決勝点を取っている場面をえんぴつとクレヨンで描こうと思っています。 ・どんな感じに描くの? サポーターとかがワーとなっている感じ? ・ああ、それいいなあ。ゴールの後ろに騒いでるサポーターとか旗とか描こうかな。 ・安土桃山時代の本能寺に行って、織田信長を明智光秀から救うところを描くつもりです。緊迫感がでるように、マジックと絵の具で描こうと思っています。 ・場面はどんな場面? ・明智光秀の軍勢が信長を取り囲んでいる間に、自分が割って入っている場面かな。 ・自分も鎧を着てるの? ・そう。自分が着たい鎧を着せる。	○一番描きたいものが何かをはっきりさせる。 ・自分が何を描きたいかを言葉にしたり、友だちに質問してもらったりすることで、より描きたいことをはっきりさせる。 ○描きたいことを表すために、どんな表現方法にするかを確認するように促す。	10
追究②	3 表現方法や構成を工夫して絵に表す。 ・背景のことをあんまり考えてなかったけど、それを考えた方が感じがでるかもな。 ・自分を描こうと思ってたけど、自分目線で描くのも面白いかもしれないな。 ・鉛筆で描いて、絵の具で色を着けようと思ってたけど、サインペンではっきりさせた方がいいかもな。 ・何か描きたい場面が変わってきたから、構図を変えてアイディアスケッチをもう一回描いてみようかな。 ・画用紙はこの色にしよう。大きさはこれだな。 ・クレヨンで描くと迫力を出せるかなあ。絵の具も水を少なめにしよう。 ・上から見た感じは描きにくそうだから、少し横から見た感じに描いてみよう	○以下のような姿が見られたら、理由等を聞き、思いの表現につながる工夫(下記)であれば、認めて励ます。 ・学習カードに描いていないものを新たに見つけて描いている。 ・ラフスケッチから構成等が変化している。 ・描画材を複数用いている。 ・スパッタリング等、既習のモダンテクニックを用いている。	27

追求 ②	うかな。 ・全部絵の具で色を着けようと思ってたけど、クレヨンも一緒に使ってみようかな。 ・この鎧をこだわって描きたいから、自分をかなり大きめに描こう。 ・広さを出したいから、自分や他のものは、ちょっと小さめに描いてみようかな。 ・思いついたもの全部描いたらゴチャゴチャしそうだから、何か描くのを減らそうかな。	・画用紙の色や大きさ、形を変えている。 ・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ等、高学年の表現の工夫の観点につながる工夫をしている。 ・こだわって描きたいものをもっている。 自分の思いを表現するために表現方法や構成を工夫して絵に表している。	
まとめ	4 本時の振り返りを学習カードに記入し、次時の表現の目標を立てる。 ・いい感じで進んでいるな。 ・どんな色や描き方をしたらいいか考えてみたい。	○めあてをもとに、振り返りができるようにする。 ○次にやりたいことを具体的に書くように指導する。	5

(7) 授業で見たい点

- ①思いを持ち、それを表現するために表現方法や構成の工夫を楽しみながら追求し、描こうとする姿
- ②抽象表現で気持ちを開放させる表現を積み重ね、絵に表すことを楽しんでいる姿。

(8) 参考資料

【1】学習カード

※学習カードは以下のような観点で準備

学習カード①…「いつのどこに行き、どんなことをしたいか」が言葉やラフスケッチで表せる学習カード

学習カード②…「描きたいこと」とそれを表せるための「表現方法」を考え、決定できるようにする学習カード

学習カード③…「描きたいこと」を表現できるようにした表現の工夫を考え、それを振り返ることができる学習カード

学習カード④…友だちの思いを表現した場面の形や色の造形的な特徴から、表現のよさを感じ取る鑑賞及び表現活動全体を通して、自分の思いを表現の工夫によってより深く表現できたかを振り返り、表現活動に満足することができたかを振り返ることができる学習カード

【2】前時の相互鑑賞を行った作品

○あら！こんなところに時間と空間を移動できる扉が！さあ、その扉を開いて、「いつの どこへ 行って どんなことをしたいか」、言葉や絵を使って考えてみよう！

いつ？
どこで？
どんなことをしたい？

心の中にあるものを自由に書いてみよう。

振り返り

○描きたいことをしっかりと決め、それを表現するために、「何を使って どんな風に表すか」考えてみよう。

「いつの どこにいつて なんかことをしたい」

○一番描きたい場面は？

○何を使って、どんな風に表す？

○アイディアスケッチ

振り返り

名前 _____

【めあて】

【振り返り ____月____日】

【振り返り ____月____日】

【振り返り ____月____日】

名前 _____

【めあて】

友だちと作品を見合い、思いを聴きながら表現の良さを見つけよう。

_____さんの作品「 _____ 」

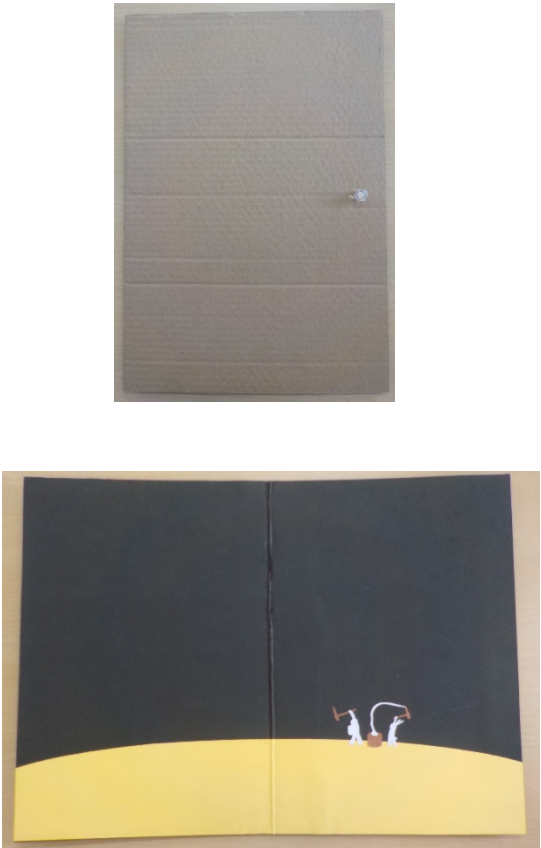
_____さんの作品「 _____ 」

_____さんの作品「 _____ 」

○「時空の扉ひらいて」の活動を振り返りましょう。

参考資料【2】 相互鑑賞を行なった作品それぞれの思いと表現方法

No.	作 品	作者の思い	表現方法
1		ウサギたちは、お茶を一緒に楽しみたいくて、月に人が来てくれるのを待っていた。そしてついに来てくれた人をテーブルに案内しているところ。描きたかったメインは、左のテーブルのおもてなし。	・ 四つ切り画用紙（紺色） ・ 単色で使っているクレヨン ・ 少なめの水の絵の具 ・ スప్పATTERING, 点, 十字や形など様々に描いた星 ・ 手を引いて案内しているウサギ ・ ウサギが指をさしているおもてなし
2		行った月は、今よりずっと昔、竹取物語の頃の月。そこへ現代から行った自分が一緒に餅つきをしている。昔の感じを出したかったので、「鳥獣戯画」をモチーフにして、墨で和紙に描いてみた。月もぼんやりさせたかったので、和紙の裏に黄色い画用紙を貼って、透けるようにしてみた。地球も青と緑を貼ってみたが、あまり目立たなかった。かぐや姫も描こうかなと思ったが、余分な感じがしたので描かなかった。	・ 版画紙 ・ 墨汁（筆・筆ペン） ・ 画用紙（黄・緑・青） ・ 台紙（紺色） ・ 白黒（モノトーン） ・ 透過 ・ 有名作品を真似てある ・ 星を描いていない ・ 画面半分がほぼ黒 ・ あるはずのないスキを描く
3		地球から望遠鏡で月を見ると、ウサギが楽しそうに宇宙飛行士と餅つきをしている。本当は、たくさんのウサギが輪になって、その中心で餅つきをしているところを上から見た目線で描きたかったが描けなかった。月面着陸で印象的だった「宇宙飛行士の足跡」と「無重力だからお餅をつくとき飛び上がっちゃう」というところを大切に描いた。	・ 画用紙（白） ・ 円い画面 ・ 墨 ・ 絵の具 ・ 筆ペン ・ クレヨン ・ 地球から望遠鏡で見ている第3者の目線 ・ 弾き効果 ・ 無重力の跳びあがり ・ 宇宙飛行士の足跡描いた。

4		美しい太陽系の星々の下、楽しくお餅をついている自分を描きたかった。太陽系のなので彗星も描いてみた。クレーターを臼の代わりにして餅をついているところや美しい地球をこだわって画いてみた。 ウサギは、輝く白い月の上でも白いウサギが目立つように別の紙に描いて切り抜いて貼った。前に描いた絵の構図がしっくりこなくて、2枚目を描いてみた。	・画用紙（紺色） ・クレヨン（重色） ・画面を斜めに2分割 ・ウサギはカラージュ ・月のクレーターで餅つき ・美しい太陽系の星々 ・ロケットも入れて、より楽しい感じ
5		望遠鏡を覗いてみると、月の上で楽しそうに餅つきをしているウサギと宇宙飛行士がいて、びっくり。宇宙飛行士が自分。 描きたかったのは、月の方だったので、あえて覗いている人は白黒にした。場所の違いを表すために対角線に絵を配置してさらにはみ出させた。 月の表面にスタンプングをしてみたり、望遠鏡にスクラッチをしたりして、画面が単純にならないように工夫してみた。	・画用紙（白・レモン、黄緑、紺、黒） ・ボール紙（裏） ・ダンボール ・クレヨン ・マジック ・液体粘土 ・クレーターをスタンピングで表現 ・スクラッチ ・スタンピング ・画面からはみ出し
6		どうしても扉を開いて、その向こう側に広がる世界を描いてみたかったので、ダンボールで扉をつくり、開けるようにした。 画面が広がったので、画用紙を貼った。月も画用紙で作って貼ると思った以上に広がりが出たので、主人公の自分とウサギの餅つきを小さくしてみたら、すごく広がる月と宇宙の世界が表せた。 他のものを貼ったり、宇宙にスパッタリングをして星を描こうか迷ったが、あえて何もしないことで、すごく広い空間で餅つきをしている自分とウサギを表すことができた。 ウサギの後ろに順番待ちをしているたくさんのウサギを作ろうか、今も迷っている。	・ダンボール ・磁石（ドアノブ） ・画用紙（黒、白、黄、茶） ・時空の扉を意識 ・広がりのある世界 ・寂しそうな空間、でも楽しそう

図画工作科研究実践授業

松川町立松川北小学校

下伊那大会研究テーマ

思いがつながる広がる 私の造形ネットワーク ～自分らしさを楽しむ授業へ～

図画工作科研究テーマ

自分なりの意味や価値を探究し、様々な表現方法を楽しむ子ども

日 時	令和2年11月13日（金） 第3校時（10:55～11:40）
指 導 者	長野県総合教育センター 専門主事 千原 厚 先生
題 材 名	「ひもひもワールド」（造形遊び）
授業学級	3学年 男子9名 女子11名 計20名
授 業 者	稲吉 匠 教諭
授業会場	会議室

I 題材設定の理由

本校では、学校教育目標に「学び合い、認め合い、ひとりひとりがたくましく、みんなが伸びる松川北小学校」を掲げ、「関心を持って授業に取り組み、主体的に学ぶ力（知）」・「自分の良さを知り、友だちの立場に立って考えられる心（徳）」・「生活習慣を整え、体力向上をはかりながら、地域の中で生きる自覚（心体）」の3つを大切に考えている。

学校教育目標を受け、ペア学習やグループ学習などの学び合いも大切にし、より深い学びから確かな学力を身につけることができるよう研究を進めてきている。

子ども達は、図画工作の授業が好きであり、楽しみながら夢中で取り組む姿が見られる。このように、やりたいという気持ちやこんな作品にしたいという願いを持っている子ども達が、素材に主体的に働きかけ、作品や対象との対話・自己との対話・友との対話を進めながら、「こんなふうに考えた」「こうしてみたらどうかなあ」などと、様々な表現を試したり見い出したりしながらより自分らしい表現ができる力を育てていきたいと考えている。

今回は、ひもを材料にして自分たちの活動によって身近な場所の見え方や感じ方が変わること気づき、図画工作の新たな表現方法を楽しんでほしいと願い、本題材を設定した。

II 研究テーマにかかわって

1 図画工作科における「自分なりの意味や価値」とは

- (1) 子どもが感性や想像力を働かせ、対象を形や色などの造形的な視点でとらえ、自分のイメージを持つこと。
- (2) 自分と異なる見方や感じ方をする他者と関わる中で、自分の見方や感じ方を広げながら、作品を作り出すこと。

2 様々な表現方法を楽しむことができる造形活動とは

- (1) 材料や場所などに進んで働きかけ、その特徴をもとに表し方を見つけたり、新しいことを試すなどして、その過程の楽しさを味わう。

- (2) 素材の特徴を生かし、美しさやおもしろさ、調和的な関係などを発想したり考えたりして、体全体の感覚を働かせる。
- (3) 思いを膨らませ、材料を並べる、組み合わせる、環境を造形的に構成するなど、体験を深める。
- (4) 低学年は遊ぶ過程を大切に、中学年は試す過程、高学年は生かす過程を大切にする。
- (5) 本題材で扱う「ひも」の、教材としての価値は次のように考える。
- ① 身近な素材でやわらかく扱いやすい。
 - ② 結んだり巻いたりでき、いろいろな形を作り出すことができる。さらに、編むことによって、線から面へと生まれ変わることができる。
 - ③ 素材や色や長さ、つなぎ方などを工夫し、飾ることによって教室の雰囲気の変化を楽しむことができる。
 - ④ 友だちの活動を見ながら、「さらに ～ したい」と刺激を受け、活動が広がっていくことができる。

Ⅲ 学習指導案

1 題材名 「ひもひもワールド」(造形遊び)

2 目 標

ひもを結んだり、巻いたりしながら、いろいろな形を発想して造形活動を楽しむことができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ ひもに体全体で関わることを通して、様々なつなぎ方や触れたときの感じ方などに気づいている。 ・ つなぎ方や色の合わせ方を工夫したひもで、自分があらわしたいものをつくっている。	・ つなぎ方や色の合わせ方を工夫したひもを、何かに見立てたり、組み合わせ方を工夫したりしている。(A 表現) ・ つないでできる形の良さやおもしろさ、友だちの表現のおもしろさを感じ取っている。(B 鑑賞)	・ ひもの感触を楽しみ、自ら材料に働きかけて、楽しく造形活動をしようとしている。

4 展開の概要

時間	○学習内容 ・ 指導	評価の観点
1	○活動の概要を知り、見通しを持つ。 ・ 様々な色のひもをつないで、教室を変身させることを提案する。	・ ひもを結んだり巻いたりしてみる活動を通して、結んだり巻いたりすることで、形や長さなどが変わることにつづける。

2 本時	○ひものつなぎ方や配色などを工夫して、ひもをつないでいく活動を楽しむ。 ・児童の活動を見て回り、声をかける。	・ひものつなぎ方や配色などを工夫して、ひもをつないでいく活動に、進んで取り組もうとしている。
3	○互いの作品を見合い、自分や友だちの作品のよさに気づく。つないだひもによって、場所の様子が変化したおもしろさを味わう。 ・ひものつなぎ方や色の組み合わせなどに注目しながら見るように声がけをする。	・自分のイメージを持ちながら、ひもを結んだり巻いたりして変化した場所のおもしろさについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

5 本時案

(1) 主 眼

ひもをつなぎ合わせる練習をし、空間をどう変化させるかイメージを持った子どもが、教室内でひもを結んだり巻いたりする活動を通して、自分たちの活動によって身近な場所の見え方や感じ方が変わること気づき、活動を楽しむことができる。

(2) 指導事項

A表現(2)ア

造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、ひもを結んだり、巻いたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

(3) 本時の位置 3時間扱いの第2時

前 時 : ひもを結んだり巻いたりして、ひもをつなぎ合わせる練習をした。

次 時 : 互いの作品を見合い、場所の様子の変化を感じる。

(4) 指導上の留意点

- ・ゴミ袋を用意しておき、ひもの切りくずはその都度捨てるように促す。

(5) 準備品

- ・ひも(毛糸・スズランテープ)
- ・はさみ

(6) 展 開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○主な発問 ・指導 助言 評価	時間
導 入	1 前時の活動をふり 返し、本時の 課題を確認する。	・どの色のひもを使おうか な。 ・たくさんつないでカラフルな 感じにしたいな。	・ひもをつなぐ練習を想起し、 どんなことができそうかイメ ージする。 ・教師が実際にひもをつないで みせる。	8
学習課題：つなぎ方や色の組み合わせを工夫して、ひもをつないでみよう。				

	2 活動の約束の確認をする。		・はさみは床に置かず、必ず刃を閉じて机の上に置くように指導する。 ・使い終わったひもは、所定の場所に戻すように指導する。	
展 開	3 自分の思いに合わせて、ひもをつないでいく。	・くもの巣みたいになったよ。 ・まとめて結ぶと虹みたいだよ。 ・ジグザグの形につないでみたよ。 ・スズランテープを細く裂いて結んでみたよ。 ・まとめて結んだら花火みたいになったよ。	○いろいろな色やつなぎ方で、ひもをつないでいこう。 ・配色やつなぎ方を工夫している児童を見つけ、称賛の声をかけたり、他の児童に紹介したりする。 ・活動が停滞している児童がいたら、その児童の思いを丁寧に聞きながら、他の児童の工夫を紹介したり、一緒につなぎ方を考えたりする。 ・活動の途中に、部屋の出入り口やひもの下など、活動中には見ない視点から見てみる時間を設定する。 教室内でひもを結んだり巻いたりする活動によって、身近な場所の見え方や感じ方が変わること気づき、活動を楽しむことができたか。	30
終 末	4 本時をふり返り、感想を持つ。 5 次時の活動の確認をする。	・いろいろな色を使ってやってみたよ。 ・ひもを机の脚に結んでみたよ。 ・他の人は、どんな工夫をしたのかな。	○自分が工夫したことや、もっとこうしたかったことなどを発表しよう。 ○次の時間は、皆の作品を見合って、友だちの工夫の良さを見つけよう。	7

(7) 見ていただきたい点

- ① 本題材は、子ども達が素材に主体的に働きかけ、浸り込めるものであったか。
- ② ひもを、結んだり巻いたりしてつなぎ合わせていく活動の中に、対話（作品や対象と・自己と・友と）が見られたか。

美術科研究実践授業

下伊那大会研究テーマ

思いつながる広がる私の造形ネットワーク

～自分らしさを楽しむ授業へ～

美術科研究テーマ

自分のあらわしたい思いを明確にしながら、友と伝え合う中で、表現力を伸ばす指導のあり方

日時 令和2年11月13日 金曜日 3校時

題材名 私のかたち・いろ 広がれ！

会場 松川中学校 美術室

学級 松川中学校 3年4組 男子 14名 女子 15名 計 29名

授業者 水野 恭子 教諭 (松川中学校)

指導者 上條 雪絵 先生 (青木村立青木中学校教頭)

1、題材設定の理由（題材に関わる子どもの実態）

本年度の3年生は、1年次から「思い」をあらわす題材を経験してきており、形のないものをあらわすことや、自分らしい表現を工夫する楽しさを感じることができる生徒たちである。

しかし、依然として絵画分野、特に絵の具を使うことへの抵抗感が強く残っており、表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。そんな生徒たちが、絵の具のよさを感じ、失敗を恐れず色を思いきり楽しめる授業ができないものか課題を感じてきた。

そこで、紙より堅牢な板を支持体にするすることで、失敗しても何度も色を重ねられるようにして、色を使うことへの抵抗感を少なくし、思い切った表現ができるようにと考えた。また、形については彫刻刀で線を彫って表現することによって、線だけにとどまらず、面を意識することができるため、形への意識が高まる良さも期待できる。以上のように支持体を板にするすることで、自分のあらわしたい「思い」をより自由に追求できると考えた。

今回は、中学3年生ということで、自分をテーマにして今の自分から未来の目指す自分像へ思いが広がり、制作をしながらさらにこれからの自分についての期待感を膨らめてほしいと願い、本題材を設定した。

2、題材の目標と評価規準

(1) 題材名 私のかたち・いろ 広がれ！

(2) 題材の目標

今の自分の心の中を見つめ、なりたい未来の自分を思いながら生み出した主題を基に、彫り方を工夫したり、凹部と凸部の配色や全体のバランスなどを考えたりしながらローラー等で着色して、一枚の板上に自分の「思い」を表す。

(3) 題材の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①形や色彩などの性質、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを理解している。知 ②彫刻刀を使った彫り方やローラー等の使い方などを身につけ、表現の意図に応じて工夫し、制作の順序や表現の効果などを考えながら表している。技	③表したいイメージなどを基に主題を生み出し、凹部の深さや太さ、凸部の配色やローラー等による着色の仕方、凹部と凸部とのバランスなど全体の構成を考えている。発 ④造形的な良さを感じ取り、作者の心情や表現の意図、創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。鑑	⑤創造活動の喜びを味わい、凹部の彫り方やローラー等による凸部の着色など、表現の意図に応じて表現方法を工夫しながら取り組もうとしている。態表

3、展開の概要（全12時間）

	学習内容	活動内容	時
1	出会い	① 自分の今の気持ちや性格から、今の自分のかたちを考え抽象的な形で表現する。 ・ 示範作品を見て、思いを明確にする。 ② 全体鑑賞の場を設け、お互いの作品のよさを見合う。 ③ 自分の自分のかたちからスタートして、未来に向けてなりたい自分の姿をイメージしながら変化し広がっていく形を考える。 ・ 示範作品から、やり方や思いを明確にする。 ④ 完成したスケッチを松中スタンダードで鑑賞しあい、よさを見つけたり、アドバイスをし合ったりし、自分の制作に生かす。	2
2	広がり・深まり	① 完成したスケッチを彫りであらわすことを伝え、完成までの手順について知る。（示範作品や動画を視聴して理解する） ② 彫りの特徴や技法について学び、実際に彫る練習をしながら、自分の思いに合った彫りを模索する。 ③ どの彫りであらわすかイメージしながら、ベニヤ板に下描きをする。最初に描いたスケッチにとらわれず、自分の思いをあらわす。 ④ 思いがあらわせるように工夫しながら、彫り進める。	5
		⑤ 色の効果を考え着色計画を立てた後、彫った凹部を着色する。示範作品を見ながら、どのような色にするかイメージしながら色をぬる。 ⑥ 彫っていない面をローラーで着色する。「思い」が伝わるようにローラーでの着色を工夫してあらわす。【本時】 気に入らないところはもう一度彫って色をぬり直す。	4
3	振り返り	完成作品を「思い」と表現の関連に着目しながら鑑賞する。	1

4、本時案

(1) 主眼

なりたい未来の自分のかたちを彫り、凹部に着色した生徒たちが、凸部をローラーで着色する場面で、自分でローラーの使い方を試したり、友だちの表現を見たりすることを通して、自分の「思い」が表現できるように工夫して着色することができる。

(2) 本時の位置 12時間中10時間目

前時 凹部の着色を完成させる。

次時 完成に向けてさらに色を重ねる。

(3) 指導上の留意点

- ・ 示範作品や、4人1組のグループ活動での友とのかかわりの中で、友のよさを感じ取ったり、友からアドバイスをもらったりすることで、制作の見通しが持てるようにする。
- ・ 凹部の色と凸部の色を明度や、彩度の対比、補色関係を意識させることで、彫った部分を引き立たせるような配色を工夫できるようにする。

(4) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導・支援・評価	時
導入	1、自分のあらわしたい「思い」を確認する。	・ 明るい未来になるように、周りに明るい色が広がっているようにしたい。 ・ 明るい色って何色がいいかな。白を混ぜればいいかな。	・ 「思い」をあらわすためにどのような色にしたいか発表する場を設ける。	3
構想	2、ローラーの色の塗り方を工夫して、「思い」に近づける示範を見る。	・ ローラーをつかうのは初めてだからおもしろそうだな。 ・ グラデーションで上の方を明るくしたいな。 ・ 先生の作品みたいに、色を分けることもできるから、2色に分けようかな。	・ ローラーを使った示範を行う。(使い方中心に) ・ ローラーの塗り方のバリエーション見本を提示する。 色の重ね(ローラーor筆) グラデーション * 納得いかなかったら、乾いた後、別の色を重ねることができることを伝える。	10
		【学習課題】配色やローラーの使い方を工夫し、「思い」をあらわそう。		
制作	3、制作	・ 明るい色にしたいけど、下に別の色をぬっておくと引き立つかな。 ・ パステルトーンの色を何色が重ねてみようかな。 ・ 上が明るくなるようにグラデーションに挑戦してみよう。 ・ マスキングをして、色を変えてみよう。 ・ イメージと合わないから、別の色を重ねてみよう。	・ グループの隊形で制作をする。 * 試し彫りの板に試し塗りをしてもよいことを伝える。 * 線の中の色も面の色に合わせて微調整し納得するまで色を重ねる。	32
			【評価の観点】ローラーを使った色の効果を感じ取りながら、配色やローラーの使い方を工夫し、「思い」をあらわしているか。②③	
まとめ	4 友の作品を見て、次への見通しを持つ。	・ もっと濃い色にしないと線が目立たないから濃くしようかな。 ・ 線が目立つように線の色をもう一度塗り重ねようかな。	・ 「思い」に近づいてきた生徒の作品を全体で鑑賞する。 ・ 振り返りの観点を確認し、学習カードに今日のまとめをさせる。	5

長野県美術教育研究会 会則

第一章 総 則

- 第1条 本会は長野県美術教育研究会という。
- 第2条 本会に事務局を置く。
- 第3条 本会は長野県の教育者で組織する。⇒本会は、長野県の教育者並びに美術館・博物館関係者で組織する。
- 第4条 本会は美術教育の研究と振興をはかる。
- 第5条 本会の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 図画工作科・美術科の教材および指導の研究
 - 2 学童展の審査および開催
 - 3 県大会の開催
 - 4 会報の発行
 - 5 その他

第二章 構成および役員

- 第6条 本会は各郡市美術教育研究会の連合体として組織する。
- 第7条 本会に総会、代議委員会、常任委員会を置く。
- 第8条 本会に次の役員を置く。
- 1 会 長 1名
 - 2 副会長 若干名
 - 3 常任委員 若干名
 - 4 代議員 各郡市1名
 - 5 監 事 2名
 - 6 事務局員 若干名
- 第9条 役員の選出は次の方法による。
- 1 代議員は各郡市において互選により決定する
 - 2 常任委員は代議員会において選出する。
 - 3 会長、副会長は会員の中から代議員会で推薦する。ただし、副会長の1名は県大会開催郡市から推薦する。
 - 4 監事は代議員会で選出する。
 - 5 事務局員は会長の委嘱による。
- 第10条 会長は代議員にはかつて顧問を推薦する事ができる。
- 第11条 総会は年1回開催し、次の決定をする。
- 1 役員の承認
 - 2 会則の改正
 - 3 会計の承認
 - 4 事業計画の承認
 - 5 その他
- 第12条 代議員は次の権限を持つ。
- 1 総会に変わって決議する。
 - 2 事業の決定
- 第13条 常任委員会は本会の事業の企画推進をする。
- 第14条 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐し、会長事故のあるときは、これに代わる。
- 第15条 役員の任期は1年とし、再任することができる。
- 第三章 会 計
- 第16条 本会の経理は会費およびその他の収入金による。
- 第17条 会費は代議員会において決定する。
- 第18条 会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

附 則

- 1 昭和22年11月1日（第1回県大会）制定
- 2 昭和44年10月26日（第22回県大会）一部改正
- 3 昭和60年6月15日 一部改定
- 4 平成6年9月10日 研究推進委員会設置
- 5 平成11年度 各支部研究推進委員の選出

研究推進委員会

- (1) 目 的
長野県美術教育研究会の歴史的な歩みを踏まえて、図工美術科の基礎的・基本的内容を究明すると共に、教科研究深化拡大を図り、会員相互の研修を高める。
- (2) 任 務
 - ① 研究計画の企画推進にあたり、会員相互の研究活動の活性化を図る。
 - ② 県大会における授業研究の分析と評価をして、その成果と課題をまとめ、次年度の大会につなげる。
 - ③ 教科の基礎的・基本的内容の定着、研究の方向等の情報提供をし、各郡市における実践の充実を図る。
- (3) 組 織
会長委嘱により次のような構成をする。
 - ① 委員長は1名、副委員長は2名
 - ② 委員は幼、小、中、障害児、大学の各担当とする。

附則

- 1 平成18年4月29日 組織一部改定
- 2 平成21年4月26日 組織一部削除

長野県美術教育研究大会72年間の歩み

第1回	昭和22年	長野市	(北信)	長野師範学校
第2回	昭和23年	上田市	(東信)	松尾高等学校
第3回	昭和24年	松本市	(中信)	源池小学校
第4回	昭和25年	下高井	(北信)	平穂中学校
第5回	昭和26年	上伊那	(南信)	伊那北高等学校
第6回	昭和27年	北佐久	(東信)	軽井沢中学校
第7回	昭和28年	木 曽	(中信)	読書中学校
第8回	昭和29年	長野市	(北信)	城山小学校
第9回	昭和30年	更 科	(東信)	通明小・中学校
第10回	昭和31年	諏 訪	(南信)	諏訪教育会館
第11回	昭和32年	4地区		島内小学校、丸ノ内中学校、城東小学校、伊那中学校、上田中央小学校、第二中学校
第12回	昭和33年	長野市	(北信)	後町小学校、信濃教育会館、信州大学教育学部《全国大会》
第13回	昭和34年	大町市	(中信)	常盤小学校、第三中学校
第14回	昭和35年	飯田市	(南信)	浜井場小学校
第15回	昭和36年	塩 田	(東信)	塩田中学校
第16回	昭和37年	松本市	(中信)	源池小学校
第17回	昭和38年	上水内	(北信)	戸隠宝光社分校
第18回	昭和39年	南安曇	(中信)	穂高中学校
第19回	昭和40年	飯 山	(北信)	第二中学校
第20回	昭和41年	諏訪市	(南信)	高島小学校
第21回	昭和42年	須坂市	(北信)	墨坂中学校
第22回	昭和43年	辰野町	(中信)	辰野西小学校
第23回	昭和44年	佐久市	(東信)	岩村田保育園、岩村田小学校、浅間中学校
第24回	昭和45年	塩尻市	(中信)	塩尻西小学校、塩尻市民会館
第25回	昭和46年	長野市	(北信)	松代幼稚園、松代小学校、松代中学校
第26回	昭和47年	飯田市	(南信)	中央保育園、浜井場小学校、飯田東中学校
第27回	昭和48年	上田市	(東信)	東部保育園、上田東小学校、第一中学校
第28回	昭和49年	松本市	(中信)	開智小学校、松本市民会館、《関プロ大会》
第29回	昭和50年	中野市	(北信)	中央保育園、中野小学校、南宮中学校
第30回	昭和51年	諏 訪	(南信)	城南保育園、城南小学校、上諏訪中学校
第31回	昭和52年	更埴市	(東信)	若葉幼稚園、屋代小学校、屋代中学校
第32回	昭和53年	北安曇	(中信)	こまくさ幼稚園、大町小学校、仁科台中学校
第33回	昭和54年	上高井	(北信)	泉園幼稚園、須坂小学校、常盤中学校
第34回	昭和55年	上伊那	(南信)	聖ジョゼフ幼稚園、辰野西小学校、辰野中学校
第35回	昭和56年	小諸市	(東信)	野岸幼稚園、坂の上小学校、芦原中学校
第36回	昭和57年	木 曽	(中信)	櫛川保育園、櫛川小学校、櫛川中学校
第37回	昭和58年	飯田市	(南信)	入舟幼稚園、追手町小学校、飯田東中学校
第38回	昭和59年	更埴市	(東信)	埴生保育園、屋代保育園、埴生小学校、埴生中学校、屋代小学校、屋代中学校
第39回	昭和60年	長野市	(北信)	上田文化会館、《全国大会、関プロ大会》
第40回	昭和61年	南安曇	(東信)	若草幼稚園、吉田小学校、東部中学校
第41回	昭和62年	諏 訪	(中信)	穂高幼稚園、穂高南小学校、穂高中学校
第42回	昭和63年	上 小	(南信)	富士見保育園、富士見小学校、富士見高原中学校
第43回	昭和64年	上水内	(東信)	信州学園上田南幼稚園、上田南小学校、上田第六中学校
第44回	平成 元年	塩尻市	(北信)	戸隠宝光社分校、戸隠中学校
第45回	平成 2年	塩尻市	(中信)	塩尻幼稚園、広丘小学校、広陵中学校
第46回	平成 3年	駒ヶ根	(南信)	南幼稚園、赤穂東小学校、赤穂中学校
第47回	平成 4年	佐 久	(東信)	光徳学園、浅科小学校、浅科中学校
第48回	平成 5年	飯山市	(北信)	しろやま保育園、飯山小学校、第二中学校
第49回	平成 6年	松本市	(中信)	青い鳥幼稚園、筑摩小学校、開成中学校
第50回	平成 7年	下伊那	(南信)	中央保育園、風越保育園、上郷小学校、鼎小学校、阿智第一小学校、浪合小学校、
第51回	平成 8年	更埴市	(東信)	豊丘北小学校、大鹿小学校、和田小学校、追手町小学校、下久堅小学校、
第52回	平成 9年	下高井	(北信)	飯田東中学校、鼎中学校、阿智第一中学校、天龍中学校、高陵中学校、緑ヶ丘中学校
第53回	平成10年	北安曇	(中信)	飯田養護学校、飯田文化会館、《全国大会、関プロ大会》
第54回	平成11年	諏 訪	(東信)	八幡保育園、稲荷山養護学校、東小学校、屋代小学校、西中学校
第55回	平成12年	上 小	(北信)	平野保育園、中野小学校、中野平中学校
第56回	平成13年	上高井	(南信)	白馬中部保育園、白馬北小学校、白馬中学校
第57回	平成14年	木 曽	(東信)	一ツ浜保育園、下諏訪北小学校、下諏訪中学校、花田養護学校、下諏訪総合文化センター
第58回	平成15年	上伊那	(北信)	上田幼稚園、西小学校、第三中学校
第59回	平成16年	佐 久	(南信)	高井保育園、高山小学校、墨坂中学校
第60回	平成17年	長野市	(東信)	上松保育園、上松小学校、上松中学校、木曾養護学校
第61回	平成18年	長野市	(北信)	辰野東部保育園、辰野東小学校、辰野中学校
第62回	平成19年	安曇野市	(東信)	小雀保育園、中佐都小学校、浅間中学校、小諸養護学校、佐久近代美術館
第63回	平成20年	下伊那	(北信)	松代幼稚園、昭和・三本柳・鍋屋田小学校、川中島中学校、松代高校
第64回	平成21年	更埴市	(北信)	信濃美術館、水野美術館〔フレ大会〕
第65回	平成22年	長野上水内	(北信)	松代幼稚園、三本柳小学校、松代小学校、松代中学校、川中島中学校、柳町中学校、松代高校
第66回	平成23年	塩筑・木曽	(中信)	長野養護学校、信濃美術館、キッズ造形フェスタ、長野市若里文化ホール《全国大会、関プロ大会》
第67回	平成24年	諏訪	(南信)	穂高幼稚園、三郷小学校、豊科南中学校
第68回	平成25年	上小	(北信)	高松学園慈光幼稚園、松川中央小学校、高陵中学校、飯田養護学校、飯田創造館
第69回	平成26年	北信三支部	(北信)	戸倉保育園、戸倉小学校、戸倉上山田中学校、戸倉創造館
第70回	平成27年	松本	(北信)	信学会長野幼稚園、湯谷小学校、柳町中学校、長野養護学校、信濃教育会館
第71回	平成28年	上伊那	(中信)	日の出保育園、桔梗小学校、広陵中学校、木曾養護学校
第72回	平成29年	佐久	(南信)	信学会玉川どんぐり保育園、湖東小学校、永明小学校、東部中学校、諏訪養護学校
第73回	平成30年	長野上水内	(東信)	くるみ幼稚園、北御牧小学校、田中小学校、東部中学校、上田養護学校、上田染谷丘高校
第74回	令和元年	北安・安曇野	(北信)	常盤保育園、延徳小学校、中野小学校、小布施中学校、飯山養護学校
第75回	令和2年	下伊那	(中信)	波田中央保育園、波田小学校、波田中学校、松本盲学校、エクセラ高校・源池小学校
第76回	令和3年	下伊那	(南信)	高遠保育園、高遠小学校、国立信州高遠青少年自然の家・高遠北小学校、高遠中学校、高遠高校
第77回	令和4年	下伊那	(東信)	信学会佐久幼稚園、小雀保育園・近代美術館、佐久平浅間小学校、中佐都小学校、浅間中学校
第78回	令和5年	下伊那		軽井沢中学校、軽井沢ニューアートミュージアム、軽井沢高校《全国大会、関プロ大会》
第79回	令和6年	下伊那	(北信)	柏原保育園 信濃小中学校 飯綱中学校 北部高校
第80回	令和7年	下伊那	(中信)	松川小学校、松川中学校
第81回	令和8年	下伊那	(南信)	松川北小学校、松川中央小学校、松川中学校(新型コロナウイルス感染拡大に伴い参加人数を制限)